迷子対策で識別チップ

ペットボックス 全個体に装着



愛犬、愛猫へのチップを埋め込む注射器と読み取り機（右側）＝那覇市・ペットボックス

ペットショップの「ペットボックス」を運営するオム・ファム（北谷町、中村毅代表）は16日から店舗で販売する犬や猫の皮下に、個体を識別するためのマイクロチップを埋め込んで飼い主へ手渡している。従来は飼い主が任意で装着する迷子、盗難対応策。同社は個体全てに装着することで「ペットの安全と安心、さらに飼い主のモラル向上にもつながる」と期待を込める。

チップはつまようじほどの太さで長さ約1センチ。注射器で首や肩に注入する。

番号が登録されており、獣医師や保健所などが所有する専用の読み取り機で識別。ウェブなどを介して日本動物保護管理協会へ照会すれば飼い主へたどり着く。

「NPO法人どうぶつたちの病院」の長嶺隆理事長は「県内の動物病院は読み取り機の所有率が他県より高く、生かせる下地が十分ある」と同店の試みを評価した。